
MIRAGE


ねぇ
しろ…っう


ねえ…っ
んむぅん♥
…こっちぃ
キス…
キスして…よぉ…♥

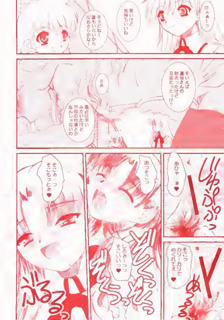

ジュプッ
ジュプッ
ああっやあっ
あたるうっ♥
パチュッ
パチュッ
ジュプッ
いいいっ
気もちいい♥
おくっ
ごつっごつんっ
ってっ
パチュッ
パチュッ
ズンッ
ズンッ
ズンッ
あぁ…っく
あたってっ
いいーっ



あっく
来てっ出してぇっ!!
つくっ ああ、だすぞっ
はっ
はぁーっ
はーっ
はーっ
はっ
ドローッ
ぼたっ
ぼたっ
ぼたっ



はーっ
はぁぁっ
はぁーっ
は…ぁ
気持ちよかった～～っ♥
はぁ～っ♥
大体魔術師って
存在自体が反社会的ともいえる訳だしね
やれやれ こんなの日課にしちまうなんて
おれら立派に不良だな
別にいいわよ そんなこと
おいお…ん?
やば 誰か来た
え…ああ…別にいいじゃない
バカ いくら結界がったってな
人前でこんなかっこうは…
ごそ ごそ ごそ
お…と…遠坂?
ってオい 何を!?
くんいっ


はぁぁ～っ
寒いけど気持ちいいね
そうだね～誰もいないからなおさらかな～
そいえば遠坂さんの靴あったけど日直だったっけ？
さぁ
最近は早いみたいだけど学校の仕事とかなんじゃないの
じゅぷぷっ
あひゃぁ♥
あっそこっ
そこっカリ…カリでめくれてぇ…♥
めくるるっ
しろぉ～っっそこいいっ♥
ぞくぞくっ
ぞくっ
そこぉっっそこもっとぉ♥
ぶるるっ


お前 わざと やっているだろ
わかる…？
そりゃあ
ズポッ ズプッ
ズプッ ズプッ ズプ
だって あの子たち 士郎のこと を
そうよっ
一生 童貞 なんて いうから
だから
それ大人げ なさげ
そんなのよく わかってるっ
でもっ わたし わたしはっ
ジュプッ
ジュプ
私の選んだ 大事な パートナーをっ
侮辱されるのは 我慢 できない あっ


ぶるっ ぶるっ ぶるっ
ご機嫌は
戻ったかい？
うん
戻った
ぐぷっ
ぐぷっ
ぐぷっ
そろそろ
もどろっか
そだね～
ぞくぞく
はぁん
遠坂…
え？
あれ
本当の結界じゃ
ないだろ
まあね


本物は
魔力を消費
しちゃうしね
確かに・・
あれは
言ってしまえば
ゾウとアリの関係
そばにゾウが
いれば
誰もアリを
気にも留めない
でしょう？
それと同じで
私たちより
周りをより強く
意識させるように
しただけよ
なるほど・・
だからいても
気づかない・・
お
じゃあ
俺先に行くから
うん
私は少し間を
置いてから
行くから♥
ぷるるっ


遠坂さん
さようなら
!?
さようなら
また明日
でね　この前は
すっごく
助かっちゃった
から
お礼にこんなの
作ったんだ～
よかったら
食べて食べて
うん
味は折り紙付きで
保障できない
けどね～
あははは


やっぱり
ばらそう!!


どうしてよ!?
どうしてって・・
お前がそんな顔してるからさ
わ…私は別に…
オレはかまわんしなんなら明日にでも・・
やめてよ!!
わ…私は…
その…
一度決めたポリシーは崩されたくないのよ!
…
そうかわかった


わっ履れば いいのよ!
どうしたのです リン
そっか あのニブチンにも 勝ったくらい だもんね
セイバーには バレバレよね
今回の貴方は 余裕が なさすぎる・
そんな事は ありません



私はまだまだ
未熟です
セイバー
ごめんね
こういう時に
何を言ったら
いいのか
わからない…
なぜ貴方が
あやまるのですか?
うん
なんとなく ね



では一つだけ
リン一番方は頭がよくて聡明な人だ
リン…この量…
ぐいっ
今日は一度ではなかったようですね♥
じゅるるるるる
ズズズズズッ
ビクッ
なら これからどうすればいいかは
十分に理解しているのでしょう
やーぁ いわないで
ぁあああっ!!!
ビクッ
はい♥
ビクッ
ツーーッ
そのとおりにすればいいのです
はーっ
はぁー…
はー…
そうなのかなぁっ
はーっ
はぁー…♥


衛宮
ああ
一つ所望したいのだが
ほらっ…
かたじけない
さみしくてな
衛宮士郎!!
今すぐ
朝礼台まで
来なさい!!
今すぐ
来なさいよっ
今すぐっ!!
な…なんだっ
今の声は
女狐遠坂っ!?
衛宮っ
これはいったい…


……
なにしてんの
タッ
タッ
遅いじゃない
遠坂


こんなとこ呼び出して
なんのつもりだよ
なにって決まってるじゃない
はぁ?
オレにはさっぱりわからんぞ－
こんなに人集めちまってどうすんだよ
ザワ
ザワ
ザワ
ザワ
ザワ
ザワ
ザワ
だいたい
え～
お忙しきにもかかわらず勝手にお集まりの皆さん
って人の話聞いてねーし!?
丁度いいので
今から私の話すことの証人になってくださいね


なんだなんだ
いよいよ決闘かっ
私こと遠坂凛は
彼、衛宮士郎君と清くステディな関係にあることを
ここに宣言いたします!!♥
おぉっ
つき差しては
今後は私にも彼にも
粉かけるのはご遠慮くださいね♥
ぎゅ
うちっ～


――って キメるはずだったのに……っ
……
何で なんで声が 出ないのよ～～っ！
なに…わたし どっ どうしちゃったの
…なんで… こんなはずじゃ
はっ
しろ…うっ？

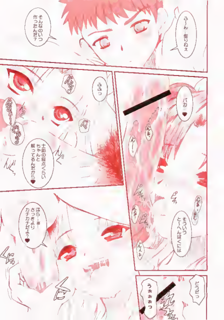

!!
んん…ん
んんん～♥
ほら…
今度はちゃんと
言いたいこと
言えるだろ
わ
わた…し…



わたし…
しろうは…
士郎はっ
わっ
私のもの
なんだから
あぁぁ～っっつ!!
オオオオォーーーッッ
はっ…や…
やっちゃった…
…つい…
!
ポカッ


とまあ
そういうことですんで
皆さん
お騒がせしました
そして
よろしく!!
えっ?
えっ?
どしてっ?
やっと言ったか～
今までの
初々しい関係も
よかったけどね～
遠坂さん
かわいかったしね
いや～
恋は女の子を
変えると言うが
あの遠坂がねぇ
でもこれで
本人も落ち着く
でしょっ
私たちまで
年がいなく
ハラハラして
しまいましたねぇ
おめでと～


んく
いつもは
んむっ
自分からはしてくれないのに
どうしたんだよ
んぁぁ～
うっ うるさいわねっ
黙ってされてなさい！
さっ…さっきの借りを
さっさと返したいだけなんだから


ふ～ん 懲りねぇ
そんなのいつ作ったんだ？
バカ…♥
ふふっ
士郎の弱点くらいちゃんと解ってるんだから♥
そういうと～へんぼくには
ぴちゃ
ほら・あ さっきよりカチカチだよ？♥
どうだっ
うぉぉぉっ


だから・ねぇ
しろう…
ね…ここぉ…
おまんこ…してぇ♥
い、ふぁっ♥



あっ
あぁあっ
ズリッ
しろう・なんかいつもよりおっきい気がする
き−気のせいだろっ
えっ−そう・？
それよりお前がキツすぎ−
きっと二人とも
じゃあ−二人とも
いつもより感じちゃっているんだよ
くね
くね
スッ
はんっいっいいっ　ビラビラっ
ビラビラがっこすれてっ
士郎のにこすれて感じるよぉっ♥


衛宮！
!?
衛宮っ おらんのかぁっ！
衛宮の奴め ここにおると 聞いたのだが
所用で動けん 間に一遠坂
あの女狐と衛宮が 交際宣言だと…？
……
しかし どうなって おるのだ
まさか・ そんなはずは ありえんが
まずは本人に 正さねばなるまい
お おい
遠坂っ
ぬるるるるるっ
ジュポッ



ねえ…衛宮君
な…なんだよ？
急にあらたまって
今から…
あっちでも
しちゃうからね？
なにっ
あっち…あっちで
する気なのか？
そっ
しろ～の
ちんこを
何でお前は
尻ですると
下品スイッチ
入っちゃうんだよ～
あらっ
士郎が悪いのよ？
なにっ
くすっ♥
お尻でハメハメ
しちゃいま～す♥
おまあ～っ♥
あっ
やっぱりい～っ


あ～ちんぽいい…
こ～もん拡がるぅ♥
だからぁ―
士郎と付き合うまでお尻に毛なんて生えてなかったし
こんな下品な言葉だって私の語彙になんかなかった わよ
それより・見て―
一成君
今 貴方の後ろ・で
士郎のちっ―ちんぽ―を
私が頂いちゃってる―のよぉ♥
一成が私たちのこと・―見てるよ


ほらぁっ わかるぅ・？
ぐぽっ
尻もぉ・・・ まんこもぉっ 私のぜ～んぶ 士郎にかいはつ されちゃって・・・ぇ
こんな・・に みっちりハマった チンポが－－ぁ
ズリっズリって 出たり・・ 入ったり－－りぃ してるんだ－ぞぉっ♥
ずぷぷぷっ
しろ～の おチンポがっ こ～も－ケツ穴 めく－って
あっやっ・士郎っ ヘンっ－見られて
おまんこまで 感じて 来ちゃったよぉっ
あぁぁぁっ♥
ぬるる～
めくれるっ・たびっ ゾクっゾクって しちゃって・ぇ♥
一成に・・ 見られて


あぁっ いいっ おしりぃっ♥
もっと もっと突いてぇ
っっ このままよ いいたいの!?
あ、
あぁっ♥
あんっ♥
あ、
あっ だめっ お尻っ おしりが くるうぅっ!!
あっ あっ♥
あ…かはーっ
しろー…ね…
あ…
まだぁ まだ ちんぽ汁が 足りないよぉ?♥


あっ
やっっ
まっっつ そんな
き…気持ち よかった…あ♥
でも…
あ〜あ…
またセイバーに 怒られちゃうな〜…


リン！
今日「あちら」でしましたね？
む〜〜
〜〜っ
わかる？
わかる？じゃありませんっ!!
なんですかその色ツヤは！
それにその魔力の充実度！
だいたいシロウのあの姿をみれば一目瞭然です！
まったく―なんてもったいない事を
あらっ
私はいいのよあちらから供給したって
なっ
わっ私はそんな
はしたない事などしません!!
その夜
リンあなるというものも
なかなか味わい深いものですね♥
そ…そうっ
あっセイバー…っ
そっ…そんなに吸っちゃ…やぁ


コスプレ喫茶
ヘブンズフィ～ル
い…いらっしゃいませ～
フィ～ル
学校アナルの禁を破ったため罰ゲームちう
ザワッ
ザワッ
ザワッ

おまけ・凛その後—


RIN
TOHSAKA